

1. 基本理念

本計画は、鎌倉の持つ様々な魅力が国民共有の財産であることを認識しながら、「住んでよかった、訪れてよかった」と思えるまちを、市民、観光客と行政がともに育てていくことを理念とします。

「住んでよかった、訪れてよかったまち」とは

鎌倉は源頼朝が、800有余年前に日本で初めての武家による政権都市を創ったまちです。武家社会は禅宗などの宗教文化と結びつくことにより、鶴岡八幡宮や鎌倉五山を代表とする神社仏閣を創出し、今日でも「武家の古都・鎌倉」として、その魅力を存分に発揮しています。

明治期以降には、保養の場としての海水浴場の開設や別荘文化の隆盛が見られるとともに、多くの文学者が住むなどの新たな魅力も創出し、今では年間1,800万人の観光客を迎える観光都市として国内外に知られるところです。

一方、首都圏のベッドタウンとして、その立地のよさから良好な住宅地としての性格も有しており、歴史や伝統の中に市民が暮らす住宅・生活都市でもあります。

この観光都市と住宅・生活都市の二面性を両立させることと歴史・文化都市としての伝統を継承することが「鎌倉らしさ」であると考えます。

この「鎌倉らしさ」とは、鎌倉の魅力を形成する歴史的遺産や自然及び景観が保全されている中で、



そこに住む人たちが武家文化の精神性や伝統、歴史的背景を理解し、「誇り」「香り」「洗練」「知性」「品格・品位」「情緒」といったこだわりを日々の生活の中で大切にしている「生活様式」「生き方」のことであり、観光客の方にも、このような「生活様式」「生き方」を理解してもらいたいと願っています。

「鎌倉らしさ」を発信し続けることによって、観光客とともに「住んでよかった、訪れてよかった」まちづくりに取り組んでいきます。

2. 基本方針

基本理念を基に、次の5つの基本方針を定めます。

方針1：歴史的遺産と自然、まち並み景観の保全を図りながら、観光資源としての活用を図ります。

方針2：新たな魅力の創出によるまちの活性化を図ります。

方針3：多様な観光行動への対応と鎌倉らしいもてなしの充実を図ります。

方針4：誰もが安全で快適に楽しめる観光空間の整備を図ります。

方針5：地域全体で観光振興に取り組む姿勢を共有し、その推進を図ります。

3. 計画のめざすところ

基本理念を具体化するために、本計画のめざすところ（将来像）を、10年後のイメージとして、3つの目標に分けて整理します。

目標1 鎌倉らしさにこだわる観光の実現

（わが国を代表する観光都市鎌倉の質の向上）

- ・観光客だけでなく市民も一緒に「鎌倉らしさ」を理解できるように、鎌倉の歴史や伝統、精神性、生活様式などを体感できるプログラムをたくさん用意します。
- ・混雑する休日とは別にゆっくりと鎌倉を楽しむことができるように、観光客が地元の人と一緒に楽しめる催しを平日や閑散期に開催します。
- ・思い立ったその日に鎌倉を楽しむことができるように、常に新鮮な情報を発信します。
- ・何泊でもしたくなるように、鎌倉に住みたくなるように、夜間や早朝に鎌倉らしさが体験できるイベントなどを用意します。
- ・課外授業等で訪れる小中学生たちが、楽しい思い出とともに鎌倉を好きになるように、鎌倉らしさを体験したり、地元の人と交流できるプログラムを用意します。

目標2 伝統と快適性が調和した観光空間の実現

（誰もが安全で快適に楽しめる観光空間の整備）

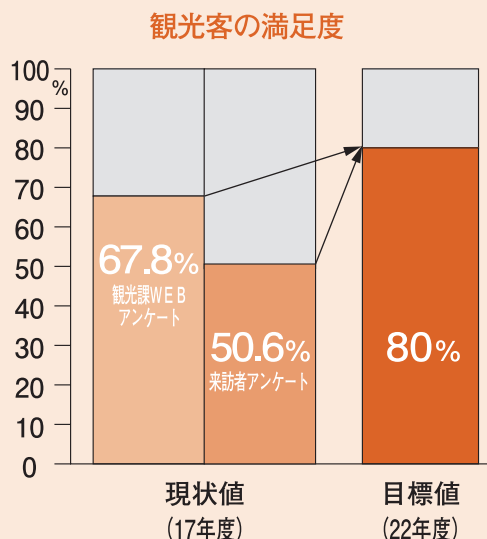
- ・世界遺産への登録を推進し、歴史的遺産や豊かな緑、まち並み景観などを良好に保つことによって、鎌倉らしい観光空間を実現します。
- ・地域一丸となって散乱ごみ対策を推進し、いつでもきれいなまちを目指します。
- ・外国人の方でも鎌倉を快適に楽しむことができるように、各種ガイドの充実や観光案内標識を多言語化します。
- ・トイレを心配せずにまち歩きできるように、飲食店等に利用協力をお願いしていくとともに、老朽化した公衆トイレを改修します。
- ・歩行者が安全で快適にまち歩きできるように、歩道の整備や電線類の地中化などを行います。

目標3 地域が一体となった観光振興の連携と推進

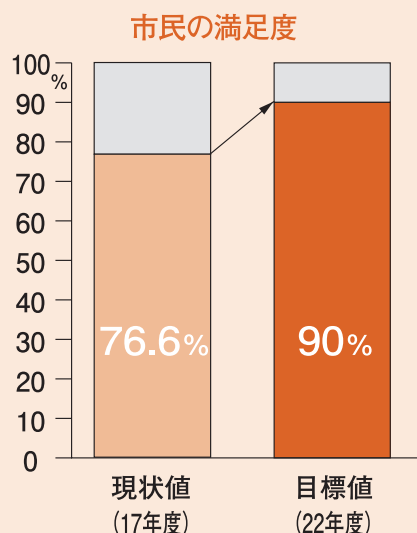
- ・地域全体で観光振興を推進するために、観光振興に積極的に取り組む観光事業者や観光関係団体及び生産者や商業、まちづくり関係者などのネットワークを拡げ、今まで以上に主体間の連携を強化します。
- ・鎌倉らしい伝統や文化を観光客にも理解してもらうために、まず市民も鎌倉で住むことに誇りを持って生活し、鎌倉に対する愛着、誇りをさらに深めます。
- ・アクションプランを着実に推進し、その進捗状況を発信するために、アクションプランの推進組織と進行管理組織を設置し、双方連携しながら観光振興に取り組みます。

4. 目標とする指標

本計画は、「住んでよかった、訪れてよかった」のまちづくりと、地域が一体となって観光客を迎え、鎌倉の良さ・鎌倉らしさを理解していただけるようにもてなしていくことを目標としており、いわゆる量より質の向上をめざすことから、以下の指標類をその進捗状況を示す目標指標として、進捗管理に活用します。



現状値は、観光課ホームページ上で随時受け付けている満足度アンケートと年4回実施している神奈川県観光振興対策協議会の入込観光客数調査の際に行っている満足度アンケートにおいて、「鎌倉に来る前の期待と比べて全体的に満足いただけましたか」との問に対して、「たいへん満足」「やや満足」と答えた人の割合です。



現状値は、市経営企画課による第3次鎌倉市総合計画基本計画に関する市民意識調査において、「鎌倉市は、観光に高い魅力と独自性のあるまちだと思いますか」との問に対して、「とてもそう思う」「少しそう思う」と答えた人の割合です。

観光客数などについて

指標の名称	現状値(17年)	目標値(22年度)
観光客数	1,840万人	現状値以上
鎌倉市内宿泊客数	29.9万人	35.9万人
海水浴客数	95.8万人	現状値以上

(資料) 観光客数および鎌倉市内宿泊客数は神奈川県入込観光客数調査、海水浴客数は観光課調査 海水浴場開設期間中(6/28-8/31)の集計



鎌倉の観光客数は、ここ数年は1,800万人前後で推移しています。現在、休日に集中している観光客を平日に分散したり、新たな魅力を紹介して滞在時間を延ばしたり、宿泊してゆっくり2日間楽しんでもらうなど、観光客の満足の質を高める観光客数のマネジメント(観光需要の的確な把握と効果的な振興策への展開)に取り組んでいくことが重要であると認識しています。

観光客数を伸ばす具体的な数値目標は設定しませんが、アクションプランを実行することによって、観光客の満足度が高まれば、必然的にリピーターが増えるなどの効果も期待できるので、「現状値以上」を目標とします。

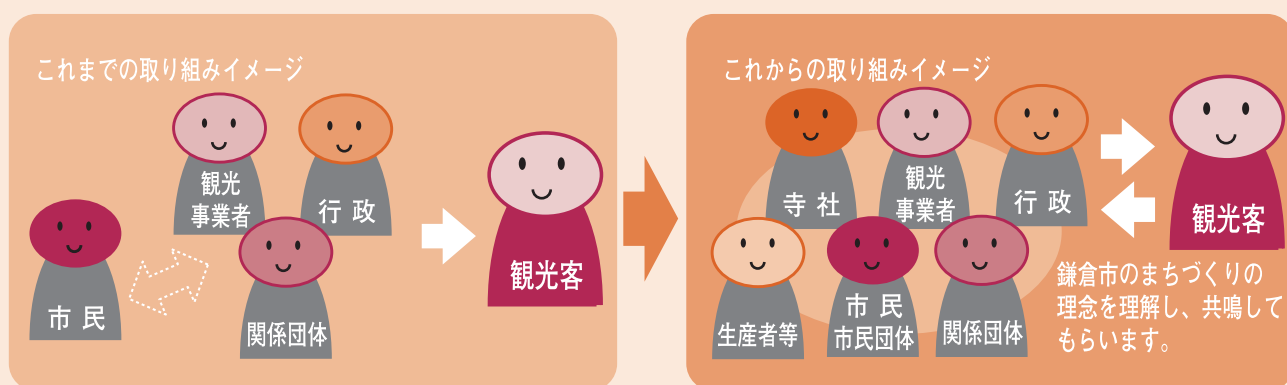
5. アクションプラン

基本理念、基本方針に基づく具体的な行動計画をアクションプランとしてまとめ、平成22年度までを前期計画期間として、その実現に向けて取り組んでいきます。

アクションプランの実施主体

アクションプランは、地域一丸となった取り組みを前提としているので、行政だけでなく、観光振興に深く関わる観光事業者や関係団体、生産者などと一緒に市民もそのできる範囲の中で役割を分担し、それぞれがそれぞれの立場でできることをお互いに連携・協力しながら取り組んでいきます。

各主体がそれぞれの役割を担って、連携・協力します



アクションプランの推進・管理

アクションプランについては、既存の組織を中心に多様な主体で構成される組織を構築し、PDCAサイクルに沿って推進、そして評価・公開していくものとします。

